

平成 23 年 3 月 14 日

東日本巨大地震の被災者を悼み

学生の皆様へ

産業技術大学院大学
学長 石島辰太郎

3 月 11 日午後に発生しました東日本巨大地震はマグニチュード 9.0 という 1000 年に一度という未曾有の大地震であり、被災地域の惨状は見るに耐えないものがあります。本学、学生の皆様におかれましては、直接の被災者は無いものと考えておりますが、ご両親、ご親戚の方々、あるいは親しい友人が被災された方がいらっしゃるかもしれません。そうした方々の心情を思いますと胸の詰まる思いがいたしますし、TV 画面から伝わってくる被災地の方々の悲しみや不安に対し、いたたまれない気持ちがしてまいります。こうした気持ちは皆さんも同じと思いますので、一人一人何ができるかを考え、被災地の復興のために可能な貢献をしていきたいと考えております。

東京の状況は被災地の惨状と比べるべくもありませんが、それでも計画停電などの影響で皆さんの日常生活にも少なからず支障がでているものと思います。学位授与式、入学式など大学で計画されている重要な事業もこうした影響を受け、平常時とは違うものとならざるを得ないかもしれません。学生の皆様にあっては記念すべき重要なイベントとは思いますが、現在の状況をご理解いただきご容赦いただけますようお願いいたします。

こうした悲惨な状況にも関わらず、略奪や暴動も起こさずこの惨状に立ち向かっていく日本国民の気高い姿には諸外国から賞賛の目が向けられているという報道があります。昔から「明けない夜はない」といいます。本学で学ばれている皆さんは日本を代表するプロフェッショナルとして誇りをもってこの惨劇に打ち勝つべく貢献していただけるものと確信しております。学生の皆様には、この悲しみを乗り越え、やがてやってくる明るい未来を想い、被災地の復興に向けて精一杯の努力をしていただけますようお願いいたします。